NPO 法人　長崎県子ども劇場連絡会 NEWS　LETTER

2021 年 8 月 15 日

第 21 号

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

# すくらんぶる

***最情報報***

***8.19***
***祭典推進委員会***
***理事会***
***8. 23***
***劇場代表者会***
***9. 28***
***理事会***
***10. 11***
***表現ワークショップ***
***10. 24***
***「フクシマ発」事後交流会***

## 第20年度　通常総会

2021年6月11日(金)10:30~13:00
大村コミュニティ―センター・第1会議室

新型コロナウイルスの感染者拡大の波が数ヶ月ごとに訪れ、県をまたぐ移動の制限や密になる集会の自粛要請が長引く中で、第２０年度通常総会は、感染防止対策を十分に取り参加人数をしぼって開催しました。

団体正会員の各子ども劇場からは、コロナ禍にありながらも活動することを諦めずに工夫し実施している様子を聞くことができました。ながさき子ども劇場では、できるかどうか危ぶまれた子どもまつりの実行委員会に、青年や青年ＯＢ、「子どもたちのために」と手を挙げた親たちも参加。リモートも含めいつもの倍以上の実行委員で子どもまつりの意義についてもあらためて話し合われました。佐世保子ども劇場は、今年５０周年を迎え昨年度から様々な周年行事に取り組んでいます。観ること・表現することを乳幼児から青年・大人まで会員みんなで楽しみ、さらにその楽しさを地域にも広げています。諫早子ども劇場は、子どもたちが活動に参画する「種まきプロジェクト」や乳幼児会員たまごっこの活動にも力を入れ、協賛団体が５団体も増えました。壱岐子ども劇場は、市の子育て支援に係る助成金が半減し、これまでやってきた活動の継続が厳しくなっていることや、活動の中でコロナ感染者が一人でも出たらという不安の中で頑張っている様子をリモートで伝えてくれました。

そして今年３月末「ふれあいコンサート」の実施を最後に３３年の歴史に幕を降ろし閉会したはさみ子ども劇場からも報告がありました。４月には新たに「わくわく DokiDoki の会」が６８名の会員により発足。当会にも準会員として加盟し、今後も地域に根ざしながら共に子ども文化活動を推進していくこととなりました。

次に議長、書記の選出後、議長から議決権総数２３のうち、出席１６、書面評決４、評決委任３で総会成立の報告があり、議事が始まりました。第１号議案（事業報告・決算報告）では、代表理事が１年を振り返り、長引くコロナ禍にあって苦労しながらも実施できた事業の成果や課題に沿ったまとめの報告がありました。第２号議案（役員選出）では、事務局長の山口さんの退任と、諫早子ども劇場の種吉さんの理事就任が承認されました。第３号議案（事業計画・予算）では、第２０年度の方針・事業計画に沿って各事業の計画が示されました。

昨年度は、第２５回祭典が中止になったことでの財政難がありましたが、持続化給付金を受けたことで赤字決算にはなりませんでした。しかし、依然として続くコロナ禍で今までのような事業のやり方は難しいと考え、今回は総会後に「県連組織見直しについて」の意見交換会をしました。まず、事務局長より現在の財政状況についての詳しい説明があり、ファシリテーターの中山理事がすすめていきました。正会員団体からは「祭典は続けたいが赤字ではできない」「寄付を増やすこと、経費の見直しを専門家に相談してはどうか」「県連に求めるものは、交流と学習」など活発な意見が出されました。今後も組織のあり方をこの１年かけて議論していくことを確認して終了しました。

# 第 26 回長崎県子ども舞台芸術祭典

2021 年7月 18日(日)～7 月 29 日(木)

第２６回長崎県子ども舞台芸術祭典は、昨年から続くコロナ感染の不安の中、予防対策のガイドラインを作り、事前交流会はズームを使ったリモート、事後交流会は行わず各実行委員会のまとめと実演団体からの声を文集にすることで共有するなど工夫して行いました。各地域で２２の実行委員会が２２ステージを実施しました。

県北地区では９地域の実行委員会が９公演取り組みました。昨年２５回が中止となり、今年度は早くから出来るのかな…の迷い、そして公演実施が決まってもハラハラの毎日を実行委員のみなさんは過ごしていました。地域の中で密着した生活をされている新上五島町、平戸市の４実行委員会、２ステージを１ステージに変更して実施した小佐々、教育委員会と協力しながら実施した川棚、今年３月子ども劇場が閉会しましたが大勢の参加があった波佐見、そして佐世保中央地域で唯一公演を実現したみなさん。どの公演も実行委員会の、「子どもたちに生の舞台芸術の感動と豊かな地域を」の強く熱い想いを今年ほど感じたのは久しぶりでした。祭典１回目を実施したころを懐かしく思い出し、来年もまた来させてください！の挨拶でお別れしました。

県央地区では５つの地域（壱岐、対馬含む）で５公演を取り組みました。あたり前のように取り組めていたものが、こんなにも貴重な時間だったのかと思わせるような今年の祭典。どの会場でも生の舞台芸術から生み出されるエネルギーに、生き生きとした子どもたちの表情と反応は、困難の中でも取り組みを決めたことへの大きなご褒美でした。諫早市内の５つの学童で作っていた実行委員会は、２学童のみでの取り組みとなりましたが、懸念する保護者への対応として、保護者会を開き、理解・協力を得ることで、公演することができました。年に一度は文化芸術に出会い感動を共有できる場をつくりたいという先生方の想いと努力が実った公演でした。舞台が始まると食い入るように作品の世界に入る子、斜に構えていた子どももだんだんと引き込まれていき、最後は会場全体が一体となっていきました。終わってすぐに「巻き戻して！もう一回観たい！」の声が聞こえてきたのには、劇団風の子九州の皆さんもとても嬉しそうでした。６年生の子どもたちは、司会、公演後の舞台道具から会場掃除まで関わって充実した表情でした。

県南地区は全部で８主催８公演でした。ながさき子ども劇場と(一社)トムテのおもちゃ箱との共催でとりくんだ「みてても、いい？」。コロナで会場の定員が半数の５０名。申し込みを断るのがとても残念でしたが、親子でゆったりと人形劇を楽しみました。昨年の中止、一昨日は台風による延期後中止で、３年分の思いがこもった公演になったのは、三井楽バラモンキッズ実行委員会。劇団風の子九州の「モシモランド」を取り組みました。コロナ禍での島での開催は本当に悩まれたそうですが、「感染者なし、市内参加者限定６０名」で開催ができました。もっと多くの子どもたちに観てほしかったけれど、みなさん喜んでくれたし、やれたことの達成感は大きかった！と報告がありました。この他、長与地区で１公演、学童公演が合わせて４公演。会場に笑顔が溢れました。

７月中旬頃から徐々に増えていく感染者の数に、ドキドキして無事終わることを祈りながら取り組んだ祭典。例年なら、実行委員会の皆さんと実演団体が一堂に会して、長崎県全体で祭典に向かっていく、一緒に取り組んでいくという一体感を持ち、公演の様子を出し合いながら喜びを共有する、そんな祭典でした。コロナ感染症の不安や財政面での厳しさなど課題も多く、今後どのように展開していけばよいのか議論していきたいと思います。

# わたしの『観る、観るとき、観れば』

VOL. 6

私がながさき子ども劇場に入会して９年目になります。年長児だった長男が今年中学３年生となり、膝の上で観ていた長女がいつの間にか私より背が高くなり、あっという間の８年だったなとつくづく思います。８年前の夏、たまたま声をかけて頂き、「夏休みの思い出に」と観に行った祭典で子どもの方が舞台の魅力にはまり、「子どものために入会したら」と言われ、入会を決めました。私も子どもも芝居を観ることが大好きで、私たちの姿を見て、主人も時間が合うと例会に参加するようになりました。例会後の帰りの車は、子どもたちの感想で話がつきず、夕食時は何日も例会の話題になることもしばしばでした。子どもたちの感想を聞きながら、子どもたちの成長を感じたり、その作品の思いをちゃんと感じていた子どもの姿に驚かされたりすることもありました。

今まで観た作品の中で、１番心に残っている作品は、長男が小学４年生の時に観た劇団うりんこの『はぐれ峠のわらい鬼』です。当時１０歳だった長男は、この作品に心を揺さぶられたようでした。長男の、主人公であるわらい鬼に対する思い、わらい鬼が思いをはせる青鬼への感情、見えない２人（わらい鬼と青鬼）の心のやりとりなどなど、この作品で長男はたくさんの思いを感じたようでした。目の前で演じて下さる演者さんの表情、言葉づかい、その会場の空気感を、自分のことのように受け止め、自分のことのように言葉にしていく子どもの力に、私の方が考えさせられたり、気づかされたりしたことを今でも覚えています。主人との会話でも何度もこの話題になり、こういった作品に出会えた幸せを何度夫婦でかみしめたことでしょう。

その例会から半年経った頃、別のイベントでホームステイを受け入れました。５日間のホームステイは、子どもにとって本当に楽しい日々で、別れの時は涙涙でした。大泣きしている長男の側でそっと寄り添い、背中をさすってあげることしかできずにいた私に、長男は、泣きはらした顔で、「お母さん、今、僕、わらい鬼になったよ。」と一言。この半年の間には、他の作品も観ていましたし、わらい鬼を観たときの感情も日常生活を送る中で、少しずつ薄れていたでしょう。しかし長男はその別れで感じた自分自身の感情を、劇中に感じ取ったわらい鬼の感情と結びつけ、この感情を分かってもらえるだろうと私にそう表現したのです。「そうね、そうね。悲しいね。きっと○○（長男）の気持ちは、△△（ホームステイした子）にちゃんと伝わってるよ。わらい鬼と青鬼は離れていても心は通じているんだよね。」と長男の例会後の感想の言葉で私も返しました。この感情の共有ができたことは、私たち親子にとって、そして家族にとって本当に財産になりましたし、今でも心の大きな支えになっていることは間違いありません。

思春期に入った今、学校のこと、友だち関係、家族のことなど悩みは複雑になってきました。昔だったら、悩んでいる長男をぎゅっと抱きしめ、一緒に悩みを解決していたことも、今では悩んでいる長男の背中を見守ることしかできないことも多くあります。しかし私たち家族が経験した気持ちの共有という見えない繋がりは、きっとこの子なら自分の力で絶対解決できるという思いとなり、長男を信じる力となっています。

私のような経験を１人でも多くのお母さんに感じて欲しいと思いながら、劇場の活動に参加しています。

（ながさき子ども劇場/秀島景子）

## 子ども劇場　舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

| 作品名 | 月日（曜） | 開演時間 | 場所 | 主催 |
|---|---|---|---|---|
| らくだ（はぐはぐ☆カンパニー） | 9月1日(水) | 19:00 | メルカつきまちホール | ながさき子ども劇場 |
| たっちゃんの紙芝居＋（プラス）（マーガレット一家） | 9月6日(月) | 19:00 | 芦辺町クオリティーライフセンターつばさ | 壱岐子ども劇場 |
| | 9月8日(水) | 19:00 | メルカつきまちホール | ながさき子ども劇場 |
| どんどこももんちゃん/カミナリカレー（人形劇団むすび座） | 9月20日(月祝) | 15:00 | メルカつきまちホール | ながさき子ども劇場 |
| はねるマレットうたうマリンバ（マリンバ・カンパニー） | 9月24日(金) | 19:00 | たらみ図書館海のホール | 諫早子ども劇場 |
| ＊そうぞうりょくのたね（乳幼児作品）マイ・クロ・シアター（ＯＨオフィス） | 9月21日(火) | ＊11:00<br>19:00 | 壱岐の島ホール中ホール | 壱岐子ども劇場 |
| | 9月23日(木) | ＊11:00 | たらみ図書館海のホール | 諫早子ども劇場 |
| | 9月25日(土) | ＊11:00<br>18:30 | メルカつきまちホール | ながさき子ども劇場 |
| | 9月26日(日) | ＊11:00 | アルカスSASEBO | 佐世保子ども劇場 |
| 影絵音楽団くぷくぷ「きんぎょがにげた」ほか（想造舎） | 11月28日(日) | 10:30 | アルカスSASEBO | 佐世保子ども劇場 |
| | 11月30日(火) | 19:00 | 壱岐の島ホール中ホール | 壱岐子ども劇場 |
| | 12月2日(木) | 19:00 | たらみ図書館海のホール | 諫早子ども劇場 |
| 創作歌舞伎『牛若丸』（前進座） | 12月7日(火) | 18:30 | 長崎市民会館文化ホール | 実行委員会 |
| 火よう日のごちそうはひきがえる（人形劇団京芸） | 12月19日(日) | 18:30 | メルカつきまちホール | ながさき子ども劇場 |

**NPO 法人**
**長崎県子ども劇場連絡会**
〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

*県内子ども劇場*

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト
http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/

**発行**
**NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会**

## りっちゃんの

『乳幼児おやこ』への関わりを学ぶ
# 大人のための表現ワークショップ

子どももおとなも楽しめるあそびを知りたい。
スキンシップや子どもたちへの声かけは？
安心できる場をどのようにつくっていったらいいの？
どんなことを大切にすればいいのかな？
そんなあなたの学びたいことを

楽しく遊びながら学んでいきましょう！

2021年 10 月 11 日（月）10:00～12:00
諫早市本野ふれあい館

参加対象：乳幼児に関わる大人
（会員限定）20 名

参加費:1500円
託　児:300円

りっちゃんの 0～3 才あそびワークショップ
「ぴょんぴょん山からこんにちは！」より

***団体概要***　子どもの豊かな成長と地域の子ども文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

## ★編集後記★

7 割の人たちが反対していたオリンピックが終わった。終わってみれば 6 割を超える人たちがやってよかったと思っているそうだ。当初東日本大震災からの復興がオリンピックのテーマだった。それがいつのまにか、コロナ感染症に打ち勝った証とか言い始めたと思ったら、開会式は多様性と調和がテーマになっていた。多様性…それぞれの人としての権利を尊重することだと思うが、権利がなにかも分からないような人たちの言動で、辞任退任が相次いだ。またコンパクトといいながら巨額の費用がかかるとか、ＩＯＣの実態も垣間見え、白けたオリンピックの始まりだった。それでも、選手たちの活躍に応援しようのムードが広がり、メダルラッシュに日本中が沸く。

姜尚中さんが多様性と調和をもっとも阻害するものは、国家と商業主義。それを超えて国家を忘れる、タガを外す。難民選手団が前衛的に表していると発言していた。銀メダルの選手が、金メダルではなくて申し訳ないと涙ながらにインタビューに応える姿は何とも悲しい姿だった。何が一番楽しかったかというと、スケートボードの選手たち。スポーツが遊びから発展してルールを作り競い合うということを思い出させてくれた。それぞれが自分のテクニックを競い合い、その挑戦をリスペクトし合う。そこには国家はない。ボクシング女子フェザー級金メダルの入江選手はボクシングは引退して就職活動をするそうだ。この人も今までにないタイプで楽しかった。反対していた私は意地で開会式と閉会式は見なかったが、新しい種目の若い世代の言動は、スポーツ界も何か変わるかもしれないという期待を持つことができた。

しかし、国民の 7 割が反対しても突き進んでいくということは国民の声は全く無視されているということ、戦争じゃなくて良かった（N）

**子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！**
**私たちは子どもの文化を応援します。**

社会福祉法人小野保育園
諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

ダイハツタチバナ
有限会社 林田車体工業
〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318　FAX 0957-24-1378

立石産婦人科医院
諫早市栄町 7-6
TEL0957-88-0292

白山陶器株式会社
〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251　FAX. 0956-85-6630

社会福祉法人深海保育園
諫早市高来町船津 418-1
TEL0957-32-2132

古豊歯科医院
長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165

ホテル ウイング・ポート長崎

〒854-0072 諫早市永昌町43-6
医療法人 マツオ内科クリニック
TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220